

# 看護短大における就職支援について考える

## A review on the employment support at college of nursing

山本 江里子

Eriko YAMAMOTO

(神奈川歯科大学短期大学部 看護学科)

キーワード：就職支援 奨学金 新卒離職率

### I. はじめに

未だに日本で看護師が充足していたことはないが、2006年に設けられた「7対1看護基準」により、基準を満たして診療報酬を増額するために看護師の獲得に奔走する病院が増えた。現在も看護師不足は継続している。背景には、新卒看護師の離職率の上昇、潜在看護師の増加などがある。2000年以降、看護大学は飛躍的に増えていて、看護師国家試験に合格して毎年5万人近い新人看護師が誕生している。毎年この人数の人達が増えていけば、近いうちに充足するはずである。ところが、もともと女性が多い職種ということもあり、結婚、出産を契機に退職する人もいて潜在看護師は多かったが、現在はそれに加えて新卒離職率の上昇などありがたくない現象も増えている。平成25年版看護白書によると、<sup>1)</sup>「常勤看護職員離職率（新卒含む）が、平成23年度10.9%、平成24年度11.0%、平成25年度11.0%に比べて、新卒者離職率は、平成23年度7.5%、平成24年度7.5%、平成25年度7.9%であった。」全体の離職率は、11%前後ではほぼ横ばいだが、新卒離職率は再び上昇傾向にある。平成21年にそのため、看護基礎教育のカリキュラムも改正されたが、果たして効果が出ているかは、定かではない。

最近の現象として、看護大学は増えているのに、実際に看護師として働く人は増えていないという矛盾が起きている。新卒が早い時期に離職してしまうのは、何故だろうか。佐藤は、<sup>2)</sup>「1つ目の昨今の経済事情などから、入学後、なるべく早い時期から奨学金を受けようとする。一中略—2つ目は、奨学金を受けることを決めた病院が本当に自分にあった就職先かどうか、迷いが出てくる」と述べている。実際に本校の学生も3年生になって多くの病院に実習に行く事で、奨学金を貰った病院に就職することに迷いが生じて、学生から相談を受けたことがある。

このような背景を考えて、今後の学生の就職支援を見直す必要があるため、卒業前に本校の現在の就職支援について質問紙調査をして、今後の本校の就職支援を考える検討材料としたい。

### II. 研究目的

卒業前に本校の就職支援の活用状況、奨学金と就職との関係について実態調査をして、本校の就職支援の検討に役立てる。

### III. 用語の定義

新卒離職率：新人看護師が1年以内に退職する割合

### IV. 研究方法

卒業前就職についての質問紙調査をし、本校の就職支援を比較検討する。

調査対象：平成25年度3月に卒業したA短大 看護学科  
3年生 92名

調査期日：平成25年2月18日

調査内容：無記名式自記式質問紙調査10項目実施  
資料1

分析方法：統計処理は、単純集計後、クロス集計して、カイ二乗検定を実施した。

倫理的配慮：文書及び口頭で研究の目的と内容を説明して、同意が得られてから実施した。

匿名性を守ること、質問紙の管理と終了後に裁断処理すること、研究への参加は自由意思であり、不参加でも不利益を生じないこと、研究の目的以外にデータを使用しないことを文書で渡して、口頭でも説明した。

本研究は、2014年2月6日神奈川歯科大学倫理審査委員会の承認（承認番号：第247番）を得てから実施した。

## 卒業前就職についてのアンケート

1. 就職先は決定しましたか。あてはまるものに○をしてください。  
はい      いいえ
2. 奨学金を利用しましたか。はいの方は、3へ進んでください。いいえの方は、6へ進んでください。  
はい      いいえ
3. どの奨学金を利用しましたか。あてはまるものに○をしてください。自治体と答えた方は、4へ進んでください。それ以外の方は、5へ進んでください。  
自治体      病院      日本学生支援機構      その他(      )
4. 3で自治体と答えた方は、就職の範囲に直接影響がありましたか。あてはまるものに○をしてください。  
はい      いいえ      その他(      )
5. 奨学金を利用した理由と、利用開始の学年を教えてください。あてはまるものに○をしてください。  
経済的理由      就職に有利と考えたから      その他(      )  
( 1年次前期 ・ 1年次後期 ・ 2年次前期 ・ 2年次後期 ・ 3年次前期 ・ 3年次後期 )
6. 就職を決めた理由は何ですか。あてはまるものに○をしてください。(複数回答可)  
卒後の教育体制      専門性を活かせる      勤務時間      スタッフ数      勤務地      給与      奨学金  
その他(      )
7. 本校の就職支援で役に立ったものは何ですか。あてはまるものに○をしてください。(複数回答可)  
履歴書の書き方      面接対策      メイクアップ講座      卒業生による就職ガイダンス      個別進路指導
8. キャリア・サポート室の活用はしましたか。あてはまるものに○をしてください。(複数回答可)  
奨学金の情報      病院説明会情報      卒業生情報      病院案内・求人票      その他(      )  
( 1年次:      回、 2年次:      回、 3年次:      回 )
9. 卒業生による就職ガイダンスで役立ったプログラムは、何ですか。あてはまるものに○をしてください。  
(複数回答可)  
卒業生の就職動機      病院での教育体制      卒後1年目の仕事内容      内定までの経緯(面接含む)  
  
入職後希望の科に入れたか      人間関係      その他(      )
10. その他、意見・感想(希望する就職支援などあれば書いてください。)

\*アンケートにご協力いただきありがとうございました。

## V. 結果

アンケート回収率は、92名中68名から有効回答が得られ、74%の回収率であった。

### 1. 単純集計結果

- 1) 就職先は決定しましたか。：はい67名 (98.5%)、いいえ0名、不明1名 (1.5%)
- 2) 奨学金を利用しましたか。：はい62名 (91.2%)、いいえ4名 (5.9%)、不明2名 (2.9%)
- 3) どの奨学金を利用しましたか。：自治体2名 (2.9%)、病院47名 (69.1%)、日本学生支援機構23名 (33.8%)、その他0名 (図1)
- 4) 3で自治体と答えた方は、就職の範囲に直接影響がありましたか。：  
はい2名 (2.9%)、いいえ1名 (1.5%)
- 5) 奨学金を利用した理由と、利用開始の学年を教えてください。：  
経済的理由42名 (61.8%)、就職に有利と考えたから9名 (13.2%)、その他1名 (1.5%)  
1年次前期33名 (48.5%)、1年次後期3名 (4.4%)、2年次前期6名 (8.8%)、2年次後期4名 (5.9%)、3年次前期13名 (19.1%)、3年次後期3名 (4.4%) (図2)
- 6) 就職を決めた理由は何ですか。(複数回答)  
卒後の教育体制37名 (54.4%)、専門性を活かせる2名 (2.9%)、勤務時間8名 (11.8%)、スタッフ数3名 (4.4%)、勤務地29名 (42.7%)、給与12名 (17.7%)、奨学金22名 (32.4%)、その他7名 (10.3%) (図3)
- 7) 本校の就職支援で役に立ったものは何ですか。(複数回答)  
履歴書の書き方19名 (27.9%)、面接対策10名 (14.7%)、メイクアップ講座3名 (4.4%)、卒業生による就職ガイダンス9名 (13.2%)、個別進路指導11名 (16.2%) (図4)
- 8) キャリア・サポート室の活用はしましたか。(複数回答)  
奨学金の情報6名 (8.8%)、病院説明会情報12名 (17.7%)、卒業生情報9名 (13.2%)、病院案内・求人票9名 (13.2%)、その他0名、1年次利用3名 (4.4%)、2年次利用8名 (11.8%)、3年次利用10名 (14.7%)
- 9) 卒業生による就職ガイダンスで役立ったプログラムは、何ですか。(複数回答)  
卒業生の就職動機6名 (8.8%)、病院での教育体制17名 (25%)、卒後1年目の仕事内容15名 (22.0%)、内定までの経緯(面接含む)5名 (7.4%)、入職後希望の科に入れたか5名 (7.4%)、人間関係7名 (10.3%)、その他0名 (図5)
- 10) その他意見・感想(希望する就職支援など)  
あんまりやってもらった記憶がない(1名)

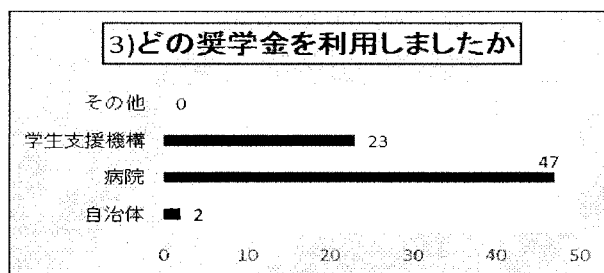


図1

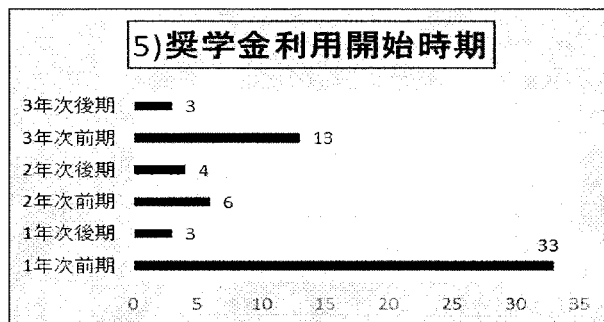


図2

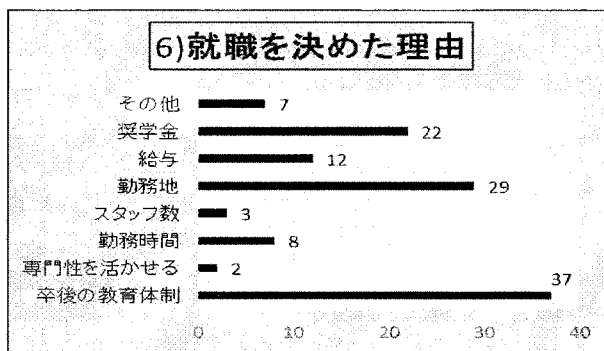


図3

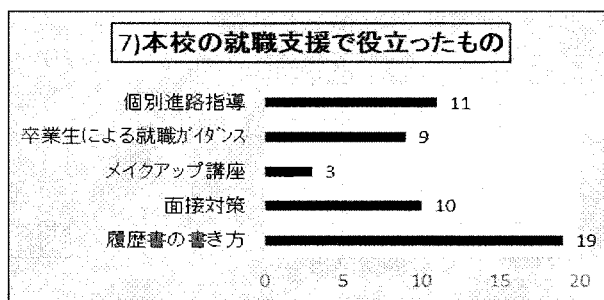


図4

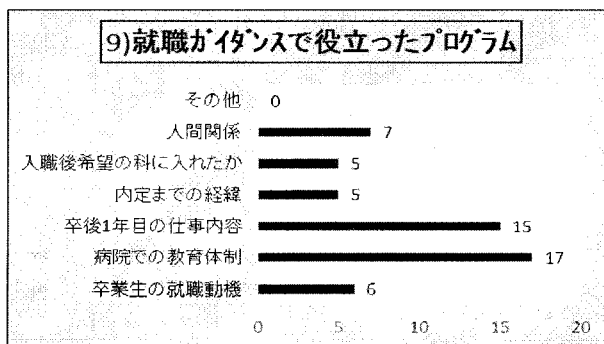


図5

## 2. クロス集計とカイ二乗検定結果（有意水準 $\alpha = 0.05$ で有意差が出たものを記述）

- 1) 問2の「奨学金は利用しましたか」に「はい」と答えた者と、問3で病院の奨学金利用と答えた者で、クロス集計後カイ二乗検定を実施して、クラメール連関係数を求めた。（以下、同様）  
p値 $0.0006 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.4654 > 0.25$  関連あり  
\*奨学金をもらっている学生は、病院からもらっている学生が多い。
- 2) 問3で自治体の奨学金を利用した者と、問4で「就職の範囲に直接影響がありましたか」に「はい」と答えた者  
p値 $0.0000 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.8616 > 0.5$  強い関連あり  
\*自治体で奨学金をもらった学生は、就職の範囲に直接影響があった。
- 3) 問3で病院の奨学金利用と答えた者と、問5で奨学金を利用した理由に経済的理由と答えた者  
p値 $0.0041 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.3485 > 0.25$  関連あり  
\*病院で奨学金をもらった学生は、経済的理由でもらっていることが多い。
- 4) 問3で病院の奨学金利用と答えた者と、問5で奨学金を利用した理由に就職に有利と答えた者  
p値 $0.0313 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.2611 > 0.25$  関連あり  
\*病院で奨学金をもらった学生は、就職に有利と考えてもらっている学生が多い。
- 5) 問3で「日本学生支援機構の奨学金を利用」と答えた者と、問5で奨学金利用開始時期を1年次前期と答えた者  
p値 $0.0028 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.3631 > 0.25$  関連あり  
\*日本学生支援機構の奨学金をもらった者は、1年次前期からもらった者が多い。
- 6) 問5で奨学金を利用した理由に経済的理由と答えた者と、問6で就職を決めた理由に給与と答えた者  
P値 $0.028 < 0.05$  有意差あり クラメール連関係数 $0.2665 > 0.25$  関連あり  
\*奨学金を経済的理由で利用した者は、就職を給与で決めている者が多い。

## VI. 考察

今回のアンケート調査で分かったことは、まず9割以上の学生が奨学金を利用しており、その約7割が病院の奨学金を利用し、残りの3割が学生支援機構を利用している。9割の奨学金利用者のうち約6割が経済的理由で

受領していることがわかった。

新谷は、<sup>3)</sup>「大学まで公立校に通わせるコースでは、1982年の648万9000円から2000年の1163万円に、私立に通わせるコースでも901万円から1595万4000円へと、ともに約8割の増加となっており、同じ時期の家計支出（月額）は25%しか増加していないことと比べ、子育てにかかる費用の支出割合が相対的に増加している」と述べている。昨今は、増税に加えて、親の給与は上昇せず、教育費の高騰なども背景にあり、親世代も経済的に大変であることが伺える。学生支援機構は、1年次前期から受領していることが多いが、3割の学生であり、就職には直接影響は出ない。自治体から受領している者は、わずかであり、4の設問「就職の範囲に直接影響したか」は、自治体から受領するとその自治体に就職することが前提条件のため必要がない設問であった。

問題は、7割の病院から奨学金を受領している学生だ。人数も多いが、就職先を決定することになるので、慎重に選ぶ必要がある。卒業生が就職後に訪れて、「こんなはずではなかった。もっと、奨学金をもらう前に考えてからにすれば良かった」と研究室で話しているのを何度か耳にした。日頃学生から相談を受けていて感じるのは、奨学金の金額が高いことに引き寄せられて契約してしまった学生は、就職後に後悔するケースが多いということである。昨年の事例では、奨学金をもらっていたが、数カ月で退職して一括返済を余儀なくされ、親に借金をして返却した者もいた。しかし、お金だけ返却すれば済む問題ではない。学校の信用にも関わる問題であるし、本人の看護師人生においても、最初につまづいてしまうことは避けたいため、奨学金の契約は、慎重にする必要がある。

A看護大学では、問題解決のため1、2年生を対象に「奨学金説明会」「進路相談会」を開いている。佐藤は、<sup>4)</sup>「赤十字病院の看護部長や副看護部長といった方々に、病院と奨学金の説明に来ていただきました。一中略一参加病院には、卒業後数年以内の卒業生を連れてきていただくことをお願いし、一中略一奨学金の受給の時期のことや就職のための病院訪問の時期を考慮して、4月後半に開催することとしています」と述べている。このように病院側から学校に出向いて頂き、奨学金や病院の話も伺うことができれば、病院と学生が直接話をするため、学生にとっても非常にわかりやすいと思われる。時期も4月に実施することで、多くの学生が奨学金をもらう前に間に合わせることができる。

現在、キャリア・サポート委員会で、2年生は、7月に第1回就職ガイダンスで就職活動の基本や病院説明会などについて説明し、12月～2月に第2回就職ガイダンスで、就職活動の進め方、履歴書セミナー、面接対策講座をしている。3年生は、4月に卒業生による就職と国

試ガイダンス、メイクアップ講座など実施している。アンケートの結果から、履歴書の書き方は、3割近い学生が役に立ったとしているが、個別進路指導、面接対策、卒業生のガイダンスの順番に低く、メイクアップ講座は、数%の学生しか役に立ったと答えていない。キャリア・サポート室の活用も病院説明会情報だけ2割弱活用しているが、他は今一つ活用されていない状況である。全体的に見直す必要があるだろう。ただし、本田によると、<sup>5)</sup>「学生の立場に近い卒業後1年目から3年目の看護師に依頼してメッセージ(リーフレット)を作成している」とあるが、本校では、卒業生のガイダンスで、毎年3年生の4月にB病院から卒業後1～3年目の卒業生に実際に来てもらい就職後の話をしてもらっているのも、より具体的にイメージできていると考える。このような良い部分は残して見直していくことが大切である。

学生が就職を決めた理由を見てみると、1位卒業後の教育体制(5割以上)、2位勤務地(4割以上)、3位奨学金(3割以上)という結果であった。このことから、まずは病院の教育体制を半数以上の学生は気にしている。その次に勤務地が重要な要素と考えている。3つ目に奨学金により就職先を決めていることがわかった。この事からも病院就職後の教育計画など実際に病院の方から説明を受ける事ができれば、具体的に理解できて就職の判断目安になり、より学生の就職支援につながる。

カイ二乗検定の結果から、経済的理由で奨学金を受領した者は、就職先も給与で判断しているという結果が出たことは現代の若者の世相を反映しているといえよう。他の教育体制や専門性、勤務時間、スタッフ数などもすべてカイ二乗検定してみたが、有意差は出ない結果となり、唯一給与だけに有意差が出る形となった。奨学金、給与など日先のお金だけで判断して、後々就職後に失敗し、数カ月で退職という事例も最近増えていることも考えると残念な結果である。1年目の給与は、設置主体や地域により格差は少しあるが、それほど大きな開きがないのが現実である。それよりも自分に見合った就職先に勤務出来て、一定年数勤務して看護師として必要な知識や技術を段階的に学びとり、将来の自分のためにステップアップできることの方が重要である。高橋らによると、病院選びの決め手は次の5つである。<sup>6)</sup>「①魅力的な先輩が存在する。②私生活とのバランスをとりやすい。③目標を実現できる環境が整っている。④ナースを目指すきっかけをくれた。⑤患者とナースの距離が近い。」学生がこれらの条件がわかるような就職支援ができれば良いのではないだろうか。①魅力的な先輩の存在は、卒業生がガイダンスを実施していることで本校は出来ていると考える。②私生活とのバランスは、昨今よく言われるワークライフバランスのことであり、勤務時間や3交替か2交替か、住まいやそれ以外のクラブ活動なども含ま

れる。③目標実現できる環境は、病院の特徴や、認定・専門看護師制度の導入などが考えられる。⑤患者とナースの距離は、病院見学に参加することでわかるだろうが、実習するのが最もわかりやすい。これらのことを学生が少しでも理解でき、自分の希望に合った病院選択ができるようにしていくことが、今後重要である。

## Ⅶ. 結論

1. キャリア・サポート委員会での就職支援内容を継続するものと、見直すものと分けて検討する。  
継続するもの：履歴書の書き方、面接対策、卒業生による就職ガイダンス、個別進路指導  
見直すもの：メイクアップ講座、キャリア・サポート室の活用
2. 学生は、経済的理由から就職の条件を奨学金や給与などで判断する傾向があるため、進路指導時は、将来就職後の自分のことも考えてアドバイスするように教職員は心がけていく必要がある。
3. 就職支援は、学生が自分の進路を考えるうえで重要となる病院の特徴や将来のビジョンが理解できるような支援をする必要がある。それには、病院と学生が直接対話できる機会を在学中につくり、学生と病院の橋渡しをしていくことが重要である。

## Ⅷ. 謝辞

本研究にご協力頂いた卒業生の皆様と、ご協力頂いた関係機関の皆様へ深く感謝致します。

## 文献

- 1) 平成26年度版看護白書、日本看護協会出版会編集
- 2) 佐藤 眞：看護大学における就職支援例、看護、vol.63 No.13、p.56 (2011)
- 3) 新谷 由里子：親の教育負担意識と少子化、人口問題研究、61-3、p.21 (2005)
- 4) 佐藤 眞：看護大学における就職支援例、看護、vol. 63 No. 13、p.56 (2011)
- 5) 本田 美恵子：リクルートを意識した実習活動・学校訪問、看護、vol.63 No.13、p.50 (2011)
- 6) 高橋 知之、奥村 伸吾：働く病院は、これで決めた!、Nursing College、8月号、p.51 (2008)

著者への連絡先：山本江里子

〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地

神奈川歯科大学短期大学部 看護学科

TEL：046-822-9564 (内線：2705)

E-mail：e.yamamoto@kdu.ac.jp